

# 令和4年度 つつじが丘校区認知症行方不明者搜索模擬訓練

---

豊橋市東部地域包括支援センター 認知症地域支援推進員  
つつじが丘校区民生委員副会長  
アイセイ薬局 つつじが丘店

森 梨香  
倉田 裕里恵  
中澤 祐里

# 事前の目的や目標について

---

- ①自治会、民生委員の協力を得る
- ②検索範囲を広げる
- ③近隣の機関に協力を依頼する
- ④スマートタグ(3種類)を利用して検索を行う

# スマートタグとは・・・

---

スマートフォンに専用のアプリを入れて接続することで、スマートタグの位置情報を地図上で確認することができます。

接続したスマートフォンとタグが離れるとお知らせがきます。

カギに付けたり、お財布に入れたりして「置き忘れ防止タグ」や「紛失防止タグ」などと呼ばれています。

スマートタグを購入した後に通信料などの追加料金はかかりません。

・AirTag(エアタグ)



・MAMORIO(マモリオ)



・tile(タイル)



# ①10月5日行方不明者搜索模擬訓練の準備会議 (地域ケア会議)参加者20名

---

## 【参加者】

- ・民生委員
- ・アイセイ薬局(つつじが丘店)
- ・アイン薬局(豊橋東店)
- ・さとうちょう新聞店
- ・ココカラファイン(つつじが丘店・豊橋佐藤店)
- ・豊橋佐藤郵便局
- ・市役所長寿介護課

## 【訓練内容の説明】

○協力機関の皆さまは通常の業務をしていただきながら、搜索グループが「行方不明者を見かけませんでしたか？」と声掛けに寄ったら、対応をお願いします。

○4グループに搜索班を分ける。

- ・1グループ、2グループ---徒歩にて搜索
- ・3グループ---車で搜索
- ・4グループ---スマートタグにて搜索(つつじが丘地域福祉センターにてスマートタグをiPadで搜索して各グループへ連絡)

○行方不明者役は長寿介護課職員へ依頼。スマートタグを持って移動する経路を説明。

# ②10月13日認知症サポーター講座

(参加者19名)



第1部(10:05~10:30)

・講演 テーマ「前向きになれる介護術」

講師：保護司 田島章子氏(豊橋市在住)

(感想)

- ・実際に介護をされている方の話は本当に参考になった。
- ・愛情をもって接している姿がよく分かった。
- ・前もってサービスを知っておくことの大切さが分かった。



# 10月27日行方不明者搜索模擬訓練実施 (参加者21名)



# 当日の感想

---

## (発見した方より)

一人で前を歩いていた。声をかけようか迷ったが、職員の声掛け練習を思い出して後ろから走って前に回った。「こんにちは。いい天気ですね」などと声をかけ「どちらに行かれますか？」と話をしながら距離を詰めて、自分の名前を名乗った。そしたら(名前を言える設定だったので)相手が「〇〇です」と言われ、発見となった。

## (行方不明者役の方より)

急に声をかけられたので多少びっくりしたが、やさしく話しかけてくれたので恐怖心はなかった。協力店舗内にも入った。

# 課題

---

- ・参加者が民生委員と居場所(きてみてつつじ)の方のみだった。  
→認知症サポーター講座の一般参加者から訓練参加がなかった。  
今後どうやって参加につなげるか？
- ・協力機関との連携方法はどうか？
- ・スマートタグについて



# 新聞に取り上げて頂きました！

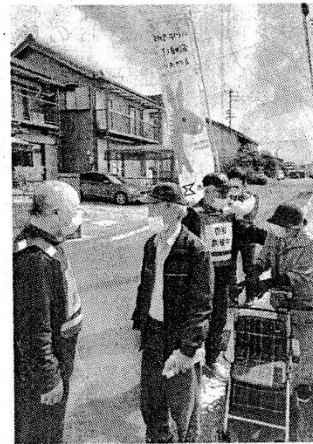
## アプリも使い、高齢者搜索

認知症増を視野に つつじが丘校区で訓練

豊橋市社協東部地域  
包括支援センター

豊橋市社会福祉協議会東部地域包括支援センターは27日、つつじが丘校区で「認知症行方不明者搜索模擬訓練」に取り組んだ。地域住民や民生委員、郵便局、新聞販売店、薬局などが参加、センター職員と共に情報伝達や搜索、声掛けなどを練習した。今回初めて3種の「スマートタグ」(紛失防止タグ)を使った搜索も試みた。

【田中博子】



校区内での搜索の様子(提供)

高齢化が進み、認知症による行方不明者は増加するとみられる。訓練は地域で安心して暮らせるまちづくりの一環として、認知症への理解を深め、地域連携を強化しよう」と開かれた。

搜索は民生委員を中心に約20人が参加。三つの

スマートタグを持った高齢者役の市職員を、口頭の情報だけを元に手分けして探した。外見の特徴や認知症の程度、不明時の経緯など聞き、発見した際の声掛けの方法を学んだ後、徒歩グループ、車いすグループ、つつじが丘地域福祉センターでス

マートタグの情報进行搜索するグループに分かれた。

服装や行方不明の経緯などを聞いた参加者は、校区内を徒歩や車で回って該当者を探したり、協力店に立ち寄って情報を求めたりした。待機組はアプリを使って情報を検



アプリを使って位置情報を調べる参加者  
=つつじが丘地域福祉センターで

索。スマートタグ3種のうち2種類は反応がなかったが、残り1種は何度か位置情報を示したため、近隣の搜索班に速やかに状況を連絡した。

高齢者役はセンター近くで無事保護。発見者は「足が速かった。声をかけようか迷ったが声をかけようか迷い出し、背後に練習を思い出し、背後に回って話をしながら距離を詰めた」と話した。

市社協は「声掛け訓練に加え、スマートタグの効果も検証した。搜索範囲が絞れる機種もあり『豊橋市認知症おかしなネットワーク』などに紹介したい」としている。

ユニフォームのことなら  
豊橋市前田町2-14  
佐々木 継維(株)  
053-441-411

協力してくださった  
機関の声

# アイセイ薬局(つつじが丘店) ～中澤様にお越しいただきました！～

- ①日頃、地域や住民との関りは？
- ②検索訓練参加へのお話をきいたとき、どのように思いましたか？
- ③参加してみてどうでしたか？





# 豊橋佐藤郵便局

## ～局長 菅沼様より～



- ①参加のお話を聞いた時、どのように思いましたか？
  - ・普段から子ども110番や高齢者向けのみまもりでんわサービスなど地域社会の活性化のためにサービスを行っている。一人一人が困ったときに訓練することで根付いていくので興味を持った。
- ②参加してみてどうでしたか？
  - ・店内に掲示していたチラシが当日のお客様の目にとまり、紹介させてもらった。
- ③今後の参加について
  - ・協力をしていきたい。

# さとうちょう新聞店

～鈴木様より～



## 【現状として】

- ・みまもーる(独居の方の新聞が溜まっているときに申込のあった家族に連絡するサービス)を行っている。
- ・配達中に「あれ？」と思う人を見かけたときに、警察に連絡することも・・・

## 【対応策として】

- ・『新聞店にはこういうところを協力してもらい、こういうときは警察に』というようなチラシやプリントを市から配ってもらえないか。
- ・新聞店として何が協力できるのか、市から依頼があったほうが協力しやすい。
- ・夜間、高齢者に限らず反射するものを身に付けてほしい。

# 今後について

---

- ・継続して行方不明者搜索模擬訓練を行うことで地域での顔見知りを増やし、見守りの目を増やしたい
- ・「あれ？」と思われる方をみかけたときに、ためらわずに声掛けができるようになりたい
- ・ドラッグストア、新聞店、郵便局など認知症について理解をしてもらえる協力機関を増やしていきたい

認知症であってもなくても、住み慣れたまちで生活ができるつつじが丘校区を目指していきたい！